

部外秘	英語
-----	----

項目	観点	教科書名						
		NEW HORIZON ELEMENTARY(2・東書)	JUNIOR SUNSHINE(9・開隆堂)	JUNIOR TOTAL ENGLISH(11・学図)	CROWN Jr(15・三省堂)	ONE WORLD SMILES(17・教出)	Here We Go!(38・光村)	BLUE SKY(61・啓林館)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて理解するとともに、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けられるように、どのように配慮がされているか。【知識及び技能】	・音声活動(Let's Listen)を十分に行ってからペアワークで話させる(Let's Try)流れで、重要表現に気付き、慣れ親しみながら言語習得がスムーズにできるように配慮されている。 ・実際のコミュニケーションにおいて活用できるよう基礎的な知識・技能が身に付けられるように、2年間を通した系統的な学びの配列に工夫が見られる。	・様々な音声活動(Let's ListenやLet's Chant)が設定され、繰り返し学習できるようにしており、新しい語彙や表現が自然と身に付けられるよう配慮されている。 ・巻末に文字を書く活動や文構造についての設定がされており、基礎的な技能を身に付け、実際のコミュニケーションにおいて活用しやすい工夫がされている。	・目標表現について繰り返し聞いたり、話したりする活動(Let's ChantやLet's Listen)が設定されており、慣れ親しんだ後に自分の考えを発表したり、友達とコミュニケーションを図る活動につなげる工夫が見られる。 ・どのレッスンも導入に英語の歌が設定されており、英語のリズムに慣れ親しむための工夫がされている。	・Listen & Talkで、音声を通して目標表現に慣れ親しみ、まとめとして自分の考えを表現する活動を設定する流れが示されているため、自然とコミュニケーションに活用できる知識・技能が身に付けられるよう配慮がされている。	・聞く活動(Let's Listen)が多く取り入れられており、言語、表現に十分慣れ親しんだ後に表現する流れとなっているため基礎的な技能が自然と身に付くよう配慮されている。 ・豊富な語彙が準備されているので、実際のコミュニケーションにおいて活用しやすい工夫がされている。	・スモールステップを重視し、聞く、話す、読む、書く活動が段階的に設定され、語句や重要表現を繰り返し学びながら、表現に慣れ親しむための工夫がされている。	・Chantでは、英語のリズムや語順に気付くことができ、音声に慣れ親しみながら英語の意味を理解し、発話する活動の設定等、配慮されている。 ・段階的な言語活動を通して、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能が身に付くよう工夫されている。
	(2) コミュニケーションを行う目的や場所、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養うように、どのように配慮がされているか。【思考力・判断力・表現力等】	・Small Talk, Let's Try, Enjoy Communicationと段階的に自分の考えを伝える活動を繰り返すことで、基礎的な力を養うよう配慮されている。 ・Unit毎の目標表現をもとにして、教科書の各ページの下にSmall Talkの例文が紹介されており、授業の中で活用しやすくなっている。 ・Check Your Stepsでは学期に1回、既習内容を生かして、自分の思いをスピーチで伝える活動を取り入れながら、聞き取ったり、やり取りしたりすることができる工夫がされている。	・Let's Playではペアやグループでの共働的で対話的な学び、を通してLesson毎の目標表現が活用できるように工夫され、Let's Tryでは学習した表現(Let's Writeで書いた英文)や語彙をもとに自分の考えを伝えたり、発表したりすることができるように構成されている。 ・全体的な構成としてLet's ListenやLet's Playで新しい語彙や表現をインプット、Let's Tryで学んだ表現や語彙をアウトプット(やりとりの中で生かす)できるように配慮されている。	・Small TalkとUse & Checkで自分のことについてやりとりしたり発表したりする活動をするので、基礎的な力を養うように配慮されている。 ・Project Timeでは既習内容をもとに聞く活動から発表に繋げていて、活動しやすく配慮されている。	・Listen and Talk と Talk to Friendsで、例文を参考にしながら繰り返し自分のことについて話す活動をするので、基礎的な力を養うように配慮されている。 ・年に3回のJUMPでは活動の流れや伝え方が明確に示されており、基礎的な力を身に付けるための工夫が見られる。	・ActivityやFinal Activityで自分のことについての発表や協働的なやりとりをすることで、基礎的な力を養うように配慮されている。 ・Read and WriteからActivityにスムーズに学習活動が移れるように構成が工夫されている。	・Let's Play では楽しみながら語句や表現に慣れる工夫がなされ、Let's Tryでは学習した語句や表現を使い、お互いの考えや気持ちを伝え合う活動ができるように構成されている。 ・You can do it!は単元の最終活動で、自分の考えを伝えたりする英文やあいづちを例示したりすることで、基礎的な力を養えるように配慮されている。	・Activityではペアやグループでの友達とのやりとりを繰り返したり、自分の考えや気持ちを発表したりすることで、基礎的な力を養うよう配慮されている。 ・Reviewでは提示された場面でどのような英語を使って伝えればよいのかを児童に考えさせるような構成になっている。
	(3) 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことができるように、どのように配慮がされているか。【学びに向かう力・人間性等】	・身近な話題を取り扱っており、児童の興味関心を高めようとする工夫が見られる。 ・世界の小学生の生活や学校の様子を取り上げたり、他国の人口や首都などを取り上げたりと社会科との関連性をもたせながら外国の人と話してみたいと、児童の主体的な活動を促す設定の工夫が見られる。 ・学んだ表現や語彙が使われている歌やおすすめの絵本を紹介する場面の設定があり、英語を身近に感じさせるような配慮がされている。	・表紙の裏にCAN-DOリストを設け学習を通して何ができるようになるかが明確になっており、目標をもって主体的に学習するように工夫されている。 ・2020年東京オリンピック・パラリンピックを取り上げるなど、今日的な話題や課題が取り扱われおり、英語を使って外国人へ紹介したくなるような設定の工夫が見られる。	・レッスンの終わりに「コラム」として世界の文化や生活習慣についての設定があり、児童が外国人に説明したり、紹介したりしたくなるような工夫が見られる。 ・各レッスンの目標が明記してあるため児童が見通しをもって主体的に学習が進められるような配慮がされている。	・HOP, STEP, JUMPの3つの段階で構成してあり、JUMPでプレゼンテーションを行うというゴールが明確にされているため、それに向かって主体的な活動ができるよう配慮されている。	・一年間の終わりには、マイブックとして学んだことを生かして自分のことが伝えられるよう巻末に書き込みシートが設定してある。学びを積み重ね、振り返り、一つの形に残せるよう工夫されている。また、児童が書いてみたい、他者にも紹介したいという主体性が生まれてくるよう配慮されている。	・各単元末での活動に加え、学年末に「学びのパスポート」を制作する活動で、既習の表現を活用できるように配慮されている。 ・6年の「英語の学習を続けていこう。」は中学校へ向けての学習目標と意欲をもたせる内容となっている。	・各単元末での活動に加え、1年に3回の発展的な対話活動が設定されていて既習の表現が活用できるように配慮されている。身近な外国の話題にも触れている。

2 内容の程度及び取扱いについて	(1) 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせるために、どのような工夫が見られるか。	・題材が、自分から地域、日本、世界へと広がっていく流れが明確である。 ・Over the Horizonでは世界の国々の食文化や観光資源を取り上げるだけでなく、世界と日本との関わりに着目させたり、世界の人権・多様性を考える題材を扱う等、見方・考え方を働かせるための工夫が見られる。	・身の回りの題材から世界に目を向けた題材に広がっている、多様な内容が扱われている。 ・活動の目的や他教科との関わりを明示し、他文化への理解を深める活動の設定等、見方・考え方を働かせるための工夫が見られる。	・中東・南米など英語圏以外の国々も多く取り扱い、世界と自国の文化の相違点に気付いたり、自国の文化とその良さに気付いたりする活動を設定する等、見方・考え方を働かせるための工夫が見られる。	・世界の文化を衣食住を中心に扱うなど、身の回りの生活に関する事項を多く取り上げ、考えることを重視し、実際の英語に触れる資料を示す等、見方・考え方を働かせるための工夫が見られる。	・Let's Read and ActやLet's Look at the Worldでは世界各国の文化をわかりやすく学ぶことができる。また自分がしたいことを考えることから異文化理解につなげる等、見方・考え方を働かせるための工夫が見られる。	・World Tourを通して世界への関心を深め、多様な価値観を受け入れることができるよう配慮されている。 ・異文化理解への体験的理解を深めるため、世界の子供たちの生活を継続的に取り上げる活動の設定等、見方・考え方を働かせるための工夫が見られる。	・Did you know?のコラムを通して、日本と世界とのつながりを意識したり、文化の多様性に関するトピックを設定する等、見方・考え方を働かせるための工夫が見られる。
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現のために、どのような工夫が見られるか。	・別冊の辞書や巻末のカードを用いて主体的に学びに参加できるよう工夫されている。 ・単元末のEnjoy Communicationでは活動の流れがわかりやすく示され、対話活動で用いた表現を振り返りながら、児童の主体的・対話的な学びを深めることができる等の工夫が見られる。	・各単元のまとめとしてLet's Tryでのペアワーク、グループワークが設定されており、友だちのことを発表する交流活動など共働的に学習に取り組むことができる。 ・単元の最初リスニングを行い、学習動機を喚起し主体的に学習に取り組むことができる等の工夫が見られる。	・具体的な課題が設定されたSmall Talkでは主体的に話す態度が育成できるよう配慮されている。 ・単元末のUse & Checkでは、「話す」から「書く」に繋がる活動を行い、より学びを深めるためのProject Timeが年2回設定される等の工夫が見られる。	・Talk to Friendsでは例となる4人の話を聞いた後、自分のことを伝え合う活動が設定され、様々な表現を参考にして学びを深めることができる。また物語を通して慣れ親しんだ目標表現を活用しながら言語活動に繋げる等の工夫が見られる。	・対話活動で慣れ親しんだ重要表現を活用し、思考や関わり合いが深まる様々なスタイルのペアワーク、グループワークが設定される等の工夫が見られる。	・単元の最初に学習のゴールを明示し、児童が学習の見通しを持ち主体的な学びが進められる。Let's tryとYou can do it!ではグループでの協働学習により深い学びに繋がる等の工夫が見られる。	・ペアワーク、グループワークを通して繰り返し表現に慣れ親しみ、理解したことの活用場面として、書く活動と発表活動を設定する等の工夫が見られる。
	(3) 外国語活動、中学校外国語科との円滑な接続や児童の実態に応じた内容の取扱いはどうような工夫が見られるか。	・5年生の巻頭に教室英語を振り返る活動、6年生では中学校生活について考えたり、巻末に語順に関するまとめの学習があったりと、円滑な接続ができるような工夫が見られる。	・5年生の巻頭に会話の復習、6年生では、学校でしたいことを発表したり、巻末で語順や時制、名詞の複数形を練習したりする学習があり、円滑な接続ができるような工夫が見られる。	・5年生の巻頭に3、4年生で学習した表現の復習、6年生では、中学校生活についての単元が設定されており、円滑な接続についての工夫が見られる。	・5年生の巻頭に日常生活や教室英語の復習、6年生では、巻末にこれまでに学習した表現の復習があり、円滑な接続についての工夫が見られる。	・5年生の巻頭に単語や表現の復習、6年生では、最後の単元で中学校でしたいことを発表したり、巻末の“My Book”を作ったりすることで、円滑な接続ができるような工夫が見られる。	・5年生の巻頭に表現や教室英語の復習、6年生では、最後の単元で中学校でしたいことを発表したり、巻末に中学校に向けてのアドバイスがあったりと、円滑な接続ができるような工夫が見られる。	・5年生の巻頭のプレユニット、6年生では、最後の単元で中学校でやりたいことを表現する活動が設定され、円滑な接続ができるような工夫が見られる。

3 構成・配 列・分量	(1) 単元の構成や教材の配 列には、どのような特色がある か。	・自分、地域、世界のことが段 階的に配列されている。 ・Small Talkのトピックや関連 する言語、文字の学習が計画 的にできる構成になっている。 ・別冊の辞書があり、絵と文 字を結び付けたり、自分の言 いたいことを伝えたりすること ができるという特色がある。	・自分、世界のことが段階的 に配列されている。 ・表紙裏にCAN－DOマップが 記載されており、目標が明確 で、単元ごとに書く活動が少し ずつ取り入れられている。 ・学んだことを生かして話す場 面や単元の終わりに、簡単な 振り返りがを設定している。	・教科書の最初に既習事項が 確認できるページがあり、各 学年への接続が円滑にできる という特色がある。 ・文字の名称を問う問題やアル ファベットを楽しく学べるよう な工夫がされている。 ・各単元の終わりに、学習の まとめと振り返りができる構成 になっている。	・身近なこと、他教科との関連 や異文化理解につながる教 材が配列されている。 ・HOP、STEP、JUMPという学 びのプロセスを踏まえた特徴 的な構成となっている。 ・聞く力をつけるために、単元 ごとに物語のストーリーを聞き 取る活動が設定されているな どの特色がある。	・各単元が「We Can！」と同 様の流れになっている。 ・自分の本当の気持ちを伝え ることができるよう、教材が工 夫されており、児童の興味・関 心が高められるという特色が ある。 ・単元ごとに学習の振り返り ができる構成になっている。	・単元の目標や学習の流れが 明確に示されている。 ・見開き構成で統一し、導入、 展開、まとめがスモールステッ プで構成されている。 ・児童がアルファベットの字 形、読み、音に慣れることが できるよう、文字遊びの時間 を系統的に位置づけていると いう特色がある。	・各単元が短く、簡単な表現を 聞くことから入り、話す活動へ と円滑に移行できるという特 色がある。 ・単元ごとに、次の授業に生 かせるような振り返りができる 構成になっている。
	(2) 単元や教材の分量にはど のような特色があるか。	・1か月あたり1Unitで構成さ れており、進度の目安がつけ やすいなどの特色がある。 ・Sounds and Letters では、 適切な分量で書く活動が取り 入れられている。	・1ページ1時間配当となっ ており、活動が過重にならない よう配慮されている。 ・活動が細分化されており、短 時間学習にも対応できるなど の特色がある。	・1つの活動を15分で行うこ とに適した分量である。 ・文字を書く活動を充実させる ために、音声を聞いてなぞっ て書く活動を計画的に取り入 れるなどの特色がある。	・70時間以内での設定で、単 元によって弾力的に指導でき るよう構成されている。 ・単元の終わりに、Write & Speakを設定し、発表と書く活 動をリンクさせるなどの特色 がある。	・70時間以内での設定で、余 裕をもって指導できるよう構成 されている。 ・単元末にまとめて書く場面を 設定しているなどの特色があ る。	・児童の発達段階に即した適 切な教材の分量となってい る。 ・書く活動においても、児童に 負担のない分量で、書くとき のポイントを示すなどの特色 がある。	・1時間で指導する内容が余 裕をもって扱える分量となっ ている。 ・書く活動においても、児童に 苦手意識をもたせないような 分量にするなどの特色があ る。
4 表記・表 現	(1) 用語や記号、レイアウト等 について、どのような工夫が見 られるか。	・新ユニバーサルデザイン書 体を開発し、活動の種類ごと に簡単なマークや記号を用い るなどの工夫が見られる。 ・各ページの上部和下部に活 動内容に関する見出しを記載 するなどの工夫が見られる。	・活動の種類ごとに簡単な マークや記号を用いたり、コー ナーごとに色分けするなどの 工夫が見られる。 ・読みづらい位置での改行を 避け、文字を大きくするなどの 工夫が見られる。	・見開き左上に目標表現を太 字で表記するなどの工夫が見 られる。 ・学年配当漢字や上位学年配 当漢字には全てふりがなを付 けるなどの工夫が見られる。	・文字の大きさ、書体を読み やすくするなどの工夫が見ら れる。 ・漢字は、原則的に当該学年 の前までの配当漢字を使用 し、当該学年以上の漢字には すべてふりがなを付けるなど の工夫が見られる。	・書くときのアルファベットに近 い形状の書体を開発して使用 したり、文字の大きさを見やす くしたりする工夫が見られる。 ・見やすくなるよう文字とイラ ストの分量に工夫が見られ る。	・各Unitのレイアウトが統一さ れており、同じ種類の情報を 決まった位置に配置するなど の工夫が見られる。 ・指示文の文字の大きさは、 「We Can！」と同サイズを使 用し、コーナー色を統一する などの工夫が見られる。	・誰にでも識別しやすいUD フォントを使用したり、Chantの 背景色を変えたりするなどの 工夫が見られる。
	(2) 写真や挿絵、図表等につ いて、どのような工夫が見られ るか	・場面設定や活動の状況が理 解しやすいように、写真やイラ ストが適切に配置されてい る。 ・ユニバーサルデザインを意 識した4技能キャラクターを掲 載する工夫が見られる。	・英単語はイラストと共に配置 するなど、児童の発達段階に 考慮して適切に写真やイラス トが用いられている。 ・登場人物の吹き出しから、 活動のイメージが湧くような工 夫が見られる。	・親しみやすいキャラクターが 設定されており、Sceneのイラ ストで、単元全体の場面設定 や状況が分かるような工夫が 見られる。	・場面設定が明確になるよう な挿絵を適切に配置してい る。 ・登場人物の表情が豊かに描 かれており、児童の学習意欲 を喚起させるような工夫が見 られる。	・児童の学習意欲を高めた り、音声や英文内容の理解を 助けたりする挿絵を多く配置 する工夫が見られる。	・内容を推測しやすいよう、挿 絵やアニメーションが使われ、 個性豊かで親しみやすいキャ ラクターを設定するなどの工 夫が見られる。	・効果的に学習ができるよう に、イラストや写真が配置され ている。必要な情報が伝わり やすいシンプルなイラストを使 う工夫が見られる。
5 体裁・使 用上の便宜	装丁や使用上の便宜等につ いては、どのような工夫が見られ るか。	・A4判で、紙は軽くて丈夫、 かつ裏写りにくいものを使 用している。 ・巻末に書き込みやすい厚い 用紙を使用したり巻末カード にミシン目を付けたりするな どの工夫が見られる。	・AB判で、表紙は強度の高い 加工を施し、汚損しにくくな っている。 ・大きく開くことができる堅牢 なつくりであるなどの工夫が 見られる。	・A4判で、植物油インキ、軽量 で書き込みやすい再生紙を用 い、製本は針金を使わない綴 じ方を採用するなどの工夫が 見られる。	・AB判で、環境にやさしい用 紙と植物インキを使用し、製本 は堅牢で長時間の使用に耐 えられるような工夫が見られ る。	・AB判で、用紙には軽量の再 生紙、印刷には植物油インク を使用している。 ・製本を長時間の使用に耐え うるものにしたり、巻末カード にミシン目を付けたりするな どの工夫が見られる。	・AB判で、横幅のある紙面を 生かして、見やすさと使いや すさを両立し、軽量で裏写りし にくい用紙を使用するなどの 工夫が見られる。	・AB判で、針金を使わない綴 じ方を採用した堅牢なつくりと なっている。書きやすく、消し やすい紙を使用するなどの工 夫が見られる。